

- Gerontology, Tokyo, 2003. 11. 24-28
4. Suzuki T.: A new health promotion program for the elderly under the long-term care insurance system in Japan. The 4th International Conference on "Nutrition and Aging". Tokyo, 2003. 11. 19-20
 5. 16. Kim H., Yoshida Y., Suzuki T.: Effects of health promotion trial in Japanese elderly women with a history of urinary incontinence; A randomized controlled trial. The 2nd Workshop on International Collaborative Studies on the Health Promotion of the Elderly, Tokyo, 2004. 2. 5-6
 6. 17. Kinugasa T., Haga S., Takemasa T., Esaki K., Katsumura T., Kizaki T., Ohno T., Furuna T., Sigiura M., Suzuki T.: Randomized controlled trial of exercise programs for physically independent elderly on physical fitness and health. 50th Annual Meeting of American College of Sports Medicine, San Francisco, 2003. 5. 28-31
 7. 18. Iwasa H., Suzuki T.: Correlates of subjective memory complaints in the Japanese elderly in an urban community. The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology, Tokyo, 2003. 11. 24-28
 8. 21. Gondo Y., Furuna T., Masui Y., Iwasa H., Inagaki H., Sugiura M., Abe T., Imuta H., Suzuki T.: Functional status of community dwelling oldest old in Tokyo: Itabashi oldest old study. The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology, Tokyo, 2003. 11. 24-28
 9. 22. Gondo Y., Inagaki H., Masui Y., Kitagawa K., Hirose N., Arai Y., Takayama M., Ebihara Y., Nakazawa S., Shimizu K., Konishi K., Kanno Y., Fujimori J.: How successful are the centenarians; Findings from the Tokyo Centenarian Study. The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology, Tokyo, 2003. 11. 24-28
 10. 23. Gondo Y., Hirose N., Arai Y., Inagaki H., Masui Y., Kitagawa K., Takayama M., Ebihara Y., Nakazawa S., Shimizu K.: Are semi-super centenarians really elites in successful aging? ; Comparison between centenarian and semi-super centenarians. The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology, Tokyo, 2003. 11. 24-28
 11. 26. Masui Y., Gondo Y., Inagaki H., Kitagawa K., Hirose N., Arai Y., Takayama M., Ebihara Y., Nakazawa S., Shimizu K., Konishi K., Kanno Y., Fujimori J.: The influences of care recipients' personality of family caregiver burden; Findings from the Tokyo Centenarian Study. The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology, Tokyo, 2003. 11. 24-28
- <平成 14 年度>
なし
- 【国内学会】
<平成 16 年度>
1. 古名丈人, 杉浦美穂, 西澤 哲, 鈴木隆雄, 奥住秀之, 伊東 元: バランス機能の低下は加齢にともない加速するか? 第 39 回

- 理学療法士学会, 仙台, 2004. 5. 27-29
2. 小島基永, 大淵修一, 池田憲昭, 古名丈人, 杉浦美穂, 西澤 哲, 柴 喜崇, 水野公輔: 歩行中の加速度変化を平均情報量で促えた易転倒性を表す指標の検討. 第 39 回理学療法士学会, 仙台, 2004. 5. 27-29
 3. 島田裕之, 杉浦美穂, 大淵修一, 古名丈人, 西澤 哲, 吉田英世, 金 憲経, 吉田祐子, 鈴木隆雄: 齢者における疼痛と身体機能・活動性・心理状態との関係. 第 39 回理学療法士学会, 仙台, 2004. 5. 27-29
 4. 熊谷 修, 古名丈人, 高梨久美子, 木村美佳, 秋田滋子, 吉田祐子, 藤原佳典, 新開省二, 吉田英世, 鈴木隆雄: 地域在宅の自立高齢者の健康維持・増進のための運動と栄養に関する複合介入プログラムの開発—Take10 プログラムを活用した大規模介入の評価—. 2003 年度プロジェクト PAN 報告会, 東京, 2004. 6 月
 5. 金憲経, 吉田英世: 農村地域在住高齢女性の尿失禁の発症状況とその関連要因の検討—3 年後の追跡調査—. 第 52 回日本教育医学会, 兵庫, 2004. 8
 6. 吉田祐子, 金憲経, 杉浦美穂, 古名丈人, 吉田英世, 鈴木隆雄: 都市部在住高齢女性における尿失禁改善に向けた取り組み—その 1—尿失禁者と非尿失禁者の体力特性—. 第 59 回日本体力医学会, 大宮, 2004. 9
 7. 金憲経, 吉田祐子, 吉田英世, 鈴木隆雄: 都市部在住高齢女性における尿失禁改善に向けた取り組み—その 2—改善群と非改善群の比較を中心に—. 第 59 回日本体力医学会, 大宮, 2004. 9
 8. 金憲経, 吉田祐子, 吉田英世, 鈴木隆雄: 地域在住高齢女性の尿失禁の改善を目指す介入プログラムの効果. 第 63 回日本公衆衛生学会, 松江, 2004. 10
 9. 吉田祐子, 金憲経, 吉田英世, 杉浦美穂, 古名丈人, 岩佐一, 権珍嬉, 鈴木隆雄: 都市部在住高齢者における尿失禁の割合とその特性. 第 63 回日本公衆衛生学会, 松江, 2004. 10
 10. 吉田祐子, 金 憲経, 杉浦美穂, 古名丈人, 岩佐 一, 権 珍嬉, 吉田英世, 鈴木隆雄: 都市部在住高齢者における尿失禁の割合とその特性. 第 63 回日本公衆衛生学会, 島根県松江市, 2004. 10. 27-29
 11. 権珍嬉, 李誠國, 尹喜貞, 熊谷修, 岩佐一, 吉田英世, 金憲経, 吉田祐子, 古名丈人, 杉浦美穂, 鈴木隆雄: 韓国と日本における地域高齢者の食品摂取多様性の比較研究. 第 63 回日本公衆衛生学会, 島根県松江市, 2004. 10. 27-29
 12. 熊谷修, 古名丈人, 高梨久美子, 木村美佳, 秋田滋子, 吉田祐子, 藤原佳典, 吉田英世, 新開省二, 鈴木隆雄: 地域高齢者集団を対象とした運動と栄養の複合プログラムによる介入の効果. 第 63 回日本公衆衛生学会, 島根県松江市, 2004. 10. 27-29
 13. 権藤恭之, 増井幸恵, 岩佐 一: 超高齢者に対する談話ボランティアの試み, 2004 年度東京都老年学会, 2004. 11. 5.
 14. 権藤恭之, 増井幸恵, 稲垣宏樹: 超高齢者の認知機能評定尺度の作成—項目反応理論を用いて—, 日本心理学会第 68 回大会, 吹田市, 2004. 9. 14
 15. 増井幸恵, 権藤恭之, 稲垣宏樹, 北川公路: 他者評定を用いた百寿者の性格特性の検討, 日本心理学会第 68 回大会, 吹田市, 2004. 9. 12
 16. 稲垣宏樹, 権藤恭之, 増井幸恵, 岩佐 一: 痴呆スクリーニング検査を利用した超高

齢者の認知機能評価 - PAS における再生課題と再認課題実施の違い -, 日本心理学会第 68 回大会, 吹田市, 2004. 9. 14

17. 岩佐 一, 鈴木隆雄: 「大都市在宅中高年者における 7 年間の生命予後に及ぼす心理学的因子の影響」. 日本公衆衛生学会第 63 回総会発表論文集, 2004, 741.
18. 湯川晴美: 低栄養予防を目的とした食事づくりの実施とその評価 (第 1 法) お達者料理教室の概要. 第 51 回日本栄養改善学会, 石川県金沢市, 2004. 10. 20-22

<平成 15 年度>

1. 鈴木隆雄, 岩佐 一, 金 憲経, 吉田英世, 古名丈人, 杉浦美穂, 吉田祐子, 熊谷修, 藤原佳典, 新開省二, 西澤 哲, 島田裕之, 大淵修一, 湯川晴美: 要介護予防のための「お達者健診」の研究 第 2 報—転倒発生に関連する要因の分析—, 第 62 回日本公衆衛生学会総会, 京都, 2003. 10. 22-24
2. 吉田英世, 岩佐 一, 金 憲経, 鈴木隆雄: 地域高齢者を対象とした骨密度と動脈硬化との関連性について, 第 62 回日本公衆衛生学会総会, 京都, 2003. 10. 22-24
3. 金 憲経, 胡 秀英, 吉田英世, 湯川晴美, 新開省二, 熊谷 修, 藤原佳典, 吉田祐子, 古名丈人, 杉浦美穂, 石崎達郎, 渡辺修一郎, 岩佐 一, 鈴木隆雄: 農村地域在宅高齢者の尿失禁の実態とそれに関連する要因—4 年間の追跡調査から—, 第 62 回日本公衆衛生学会総会, 京都, 2003. 10. 22-24
4. 古名丈人, 杉浦美穂, 吉田英世, 金 憲経, 吉田祐子, 阿部 勉, 鈴木隆雄: 要介護者リスク判定のための健診 (「お達者健診」) における歩行テストの簡便化について, 第 62 回日本公衆衛生学会総会, 京都, 2003. 10. 22-24
5. 吉田裕子, 熊谷 修, 吉田英世, 金 憲経, 杉浦美穂, 古名丈人, 岩佐 一, 天野秀紀, 藤原佳典, 新開省二, 渡辺修一郎, 芳賀 博, 鈴木隆雄: 高齢者における心拍数の縦断変化に及ぼす要因, 第 62 回日本公衆衛生学会総会, 京都, 2003. 10. 22-24
6. 岩佐 一, 吉田英世, 金 憲経, 鈴木隆雄: 都市部在宅高齢者における記憶愁訴と認知機能低下の関連, 第 62 回日本公衆衛生学会総会, 京都, 2003. 10. 22-24
7. 島田裕之, 鈴木隆雄, 大淵修一, 古名丈人: 転倒リスクマネジャーの転倒予防効果: 長期ケア施設における検討, 第 62 回日本公衆衛生学会総会, 京都, 2003. 10. 22-24
8. 寶 貴旺, 渡辺修一郎, 熊谷 修, 天野秀紀, 藤原佳典, 新開省二, 鈴木隆雄, 柴田博: 地域高齢者における血清 $\beta 2$ -microglobulin レベルの関連要因, 第 62 回日本公衆衛生学会総会, 京都, 2003. 10. 22-24
9. 權 珍嬉, 李 誠國, 金 憲経, 吉田英世, 岩佐 一, 鈴木隆雄: 地域在宅高齢者の食品摂取パタンの変化とそれに関連する要因—8 年間の追跡調査から—, 第 62 回日本公衆衛生学会総会, 京都, 2003. 10. 22-24
10. 胡 秀英, 兼子いづみ, 石垣和子, 上野まり, 片倉直子, 篠崎友子, 金 憲経, 鈴木隆雄: 地域高齢者の転倒予防を目指す保健婦の個別介入効果, 第 62 回日本公衆衛生学会総会, 京都, 2003. 10. 22-24
11. 岡本大亮, 松山めぐみ, 西堀素子, 宮本眞理子, 大井 照, 鈴木眞美, 石崎達郎, 吉田英世, 金 憲経: 介護保険非該当者への介護予防事業の効果の評価, 第 62 回日本公衆衛生学会総会, 京都, 2003. 10. 22-24
12. 衣笠隆, 芳賀脩光, 江崎和希, 古名丈人, 杉浦美穂, 植屋悦男, 勝村俊仁, 大石修司,

- 人見嘉哲, 木崎節子, 大野秀樹: 身体的自立高齢者の体力と主観的健康度に及ぼす運動介入の影響; 無作為化比較試験, 第11回日本運動生理学会大会, 2003. 8. 2-3
13. 岩佐 一, 鈴木隆雄: 地域在宅高齢者における記憶愁訴の関連要因の探索, 日本心理学会第67回大会, 東京, 2003. 9. 13-15
14. 阿部 勉, 古名丈人, 杉浦美穂, 権藤恭之, 稲垣宏樹, 鈴木隆雄: 85歳以上の地域在住高齢者の運動機能と活動能力, 第45回日本老年医学会学術集会, 2003. 6. 18-20
15. 衣笠 隆, 芳賀脩光, 古名丈人, 杉浦美穂, 鈴木隆雄, 勝村俊仁, 大野秀樹: 地域在住高齢者に対するMotor Fitness Scaleの予知妥当性, 第62回日本公衆衛生学会総会, 京都, 2003. 10. 22-24
16. 増井幸恵, 権藤恭之, 稲垣宏樹, 小西佳之, 菅野佳子, 藤森順子, 広瀬信義, 新井康道, 高山美智代, 海老原良典, 山村 憲, 中澤 進, 清水健一郎, 北川公路: 百寿者介護における介護負担感への被介護者の性格特性の影響, 第45回日本老年社会科学大会, 愛知, 2003. 6. 18-20
17. 増井幸恵, 権藤恭之, 稲垣宏樹, 北川公路: 百寿者の主観的幸福感と性格特性との関係—東京百寿者研究より—, 第67回日本心理学会大会, 東京, 2003. 9. 13-15
18. 島田裕之, 大淵修一, 西澤哲, 小島基永, 鈴木隆雄, 古名丈人, 杉浦美穂: 痴呆を有する施設入所高齢者の転倒予測, 第10回東京都老年学会大会, 東京, 2003. 10. 15
19. 湯川晴美: 都市部在住の健康高齢者における食物摂取状況に関する長期縦断研究, 第50回日本栄養改善学会, 倉敷市, 2003. 9. 16-18
20. 平野浩彦: 高齢者咀嚼能力に影響する因子の検討, 第14回日本老年歯科医学会, 名古屋, 2003. 6. 18-20
- <平成14年度>
1. 鈴木隆雄, 金 憲経, 吉田英世, 湯川晴美, 石崎達郎: 地域在宅高齢者を対象とした転倒予防に関する無作為割り付け介入研究について—2年間の追跡データから—, 第44回日本老年医学会学術集会, 東京, 2002. 6. 12-14.
2. 鈴木隆雄, 岩佐 一, 吉田英世, 金 憲経, 新名正弥, 胡 秀英, 新開省二, 熊谷 修, 藤原住典, 吉田祐子, 古名丈人, 杉浦美穂, 渡辺修一郎, 湯川晴美: 域高齢者を対象とした要介護予防のための包括的健診(「お達者健診」)についての研究 1. 受診者と非受診者の特性について, 第61回日本公衆衛生学会総会, 埼玉, 2002. 10. 23-25.
3. 金 憲経, 吉田英世, 胡秀英, 湯川晴美, 鈴木隆雄: 高齢者の転倒予防を目指す介入プログラムの効果について, 第61回日本公衆衛生学会, 埼玉, 2002. 10. 23-25.
4. 吉田英世, 鈴木隆雄, 金憲経, 湯川晴美, 吉田祐子, 天野秀紀, 藤原住典, 熊谷 修, 新開省二, 渡辺修一郎, 柴田 博: 地域高齢者における骨密度と骨折発生および死亡率の分析—TMIG-LISA 6年間の追跡研究から—, 第61回日本公衆衛生学会, 埼玉, 2002. 10. 23-25.
5. 熊谷 修, 吉田祐子, 天野秀紀, 藤原住典, 新開省二, 古名丈人, 杉浦美穂, 西澤 哲, 吉田英世, 鈴木隆雄, 渡辺修一郎, 柴田博: 地域高齢者の最大歩行速度の縦断変化に関連する身体栄養要因, 第61回日本公

衆衛生学会総会，埼玉，2002. 10. 23-25.

6. 西澤 哲，杉浦美穂，古名丈人，小島成実，
中澤公孝，鈴木隆雄：歩行中の障害物回避
動作における加齢変化について．第 24 回
臨床歩行分析研究会定例会，茨城，

2002. 11. 10.

7. 鈴木隆雄，金 憲経，吉田英世：高齢者を
対象とした転倒予防に関する無作為割り
付け介入後の転倒発生について．第 4 回日
本骨粗鬆症学会，東京，2002. 11. 21-23.

資料 1

性・年齢階級別集計結果

性・年齢階級別集計結果：2年間（2002年～2004年）の経年的変化

健康度自己評価

「あまり健康ではない」および「健康ではない」者は、男性では、14.0%（2002年）→18.4%（2004年）と増加していたのに対して、女性では、22.1%（2002年）→22.8%（2004年）とほとんど変わらなかった。

痛み

痛みが「ある」者は、男性では、44.8%（2002年）→43.0%（2004年）とほとんど変わらず、女性では、63.0%（2002年）→58.5%（2004年）に減少していた。

転倒経験、転倒回数

過去1年間に転倒が「ある」者は、男性では、14.2%（2002年）→12.1%（2004年）とやや減少し、女性でも、20.6%（2002年）→19.1%（2004年）にやや減少していた。

しかし、年齢階級別にみると、女性では、74歳以下（76歳以下）では、転倒が「ある」者は、22.3%（2002年）→15.5%（2004年）に減少していたのに対して、一方、80歳以上（82歳以上）では、16.2%（2002年）→24.8%（2004年）に増加していた。

過去1年間に転倒が「ある」者のうち、2回以上の複数回の転倒経験がある者の割合は、男性では、30.9%（2002年）→48.3%（2004年）へ大幅に増加し、女性でも、28.9%（2002年）→34.9%（2004年）に増加していた。

転倒恐怖感

「とてもこわい」および「少しこわい」者は、男性では、40.7%（2002年）→38.3%（2004年）

にやや減少し、女性でも、67.1%（2002年）→59.3%（2004年）に減少していた。

移動能力

「一人で外出できる」者は、男性では、97.7%（2002年）→96.7%（2004年）とほとんど変わらず、女性でも、95.3%（2002年）→94.4%（2004年）と変わらなかった。

歩行補助具の使用

「使っている」者は、男性では、3.3%（2002年）→6.1%（2004年）に増加し、女性でも、8.6%（2002年）→12.6%（2004年）と増加した。特に、年齢階級別にみると、男性では、80歳以上（82歳以上）で、5.3%（2002年）→13.7%（2004年）と大幅に増加し、女性でも75歳以上（77歳以上）で、8.1%（2002年）→15.1%（2004年）でかなり増加していた。

外出の頻度

「一日に1回以上外出する」者は、男性では、80.6%（2002年）→79.7%（2004年）とほとんど変わらず、女性でも、81.6%（2002年）→79.2%（2004年）と変わらなかった。しかし、年齢階級別にみると、女性では、80歳以上（82歳以上）では、「一日に1回以上外出する」者は、82.9%（2002年）→71.8%（2004年）に減少していた。

聴力、補聴器使用

「大きい声での会話」および「ほとんど聞こえない」の者は、男性では、10.2%（2002年）→10.6%（2004年）とほとんど変わらず、女性では、

7.9% (2002年) → 5.6% (2004年) と減少していた。

補聴器を日常「使用する」者は、男性では、7.7% (2002年) → 8.1% (2004年) とほとんど変わらず、女性でも、6.2% (2002年) → 7.1% (2004年) とほとんど変わらなかった。

視力、眼鏡使用

「顔をみてわかる程度」および「ほとんど見えない」の者は、男性では、4.8% (2002年) → 5.8% (2004年) と増加し、女性でも、3.4% (2002年) → 7.0% (2004年) に増加していた。

眼鏡を日常「使用する」者は、男性では、81.5% (2002年) → 81.0% (2004年) とほとんど変わらず、女性でも、82.4% (2002年) → 81.6% (2004年) とほとんど変わらなかった。

基本的日常生活動作 (ADL)

歩行「普通 (自立)」の者は、男性では、99.8% (2002年) → 99.6% (2004年) とほとんど変わらず、女性でも、99.8% (2002年) → 99.5% (2004年) とほとんど変わらなかった。

食事「普通 (自立)」の者は、男性では、100.0% (2002年) → 99.8% (2004年) とほとんど変わらず、女性でも、100.0% (2002年) → 100.0% (2004年) と変わらなかった。

入浴「普通 (自立)」の者は、男性では、99.6% (2002年) → 99.0% (2004年) とほとんど変わらず、女性でも、99.8% (2002年) → 99.8% (2004年) と変わらなかった。

着脱衣「普通 (自立)」の者は、男性では、99.8% (2002年) → 99.6% (2004年) とほとんど変わらず、女性でも、100.0% (2002年) → 100.0% (2004年) と変わらなかった。

排泄「普通 (自立)」の者は、男性では、100.0%

(2002年) → 100.0% (2004年) と変わらず、女性でも、100.0% (2002年) → 100.0% (2004年) と変わらなかった。

失禁、失禁回数

失禁については、2002年と2004年とでは、質問やそのカテゴリーが一部異なるため比較は難しい。よって、2004年時の失禁について述べると、失禁の「ある」者は、男性では、16.3%、女性では、33.3%であった。また、失禁が「ある」者のうち、失禁回数 (2004年) が少なくとも1週間に1～2回以上「ある」者は、男性では、43.5%、女性では、39.7%であった。

運動習慣

日常の運動習慣が「ある (している)」者は、男性では、80.6% (2002年) → 78.7% (2004年) とほとんど変わらず、女性では、75.4% (2002年) → 76.1% (2004年) とほとんど変わらなかった。しかし、年齢階級別にみると、女性の80歳以上 (82歳以上) では、71.8% (2002年) → 80.3% (2004年) に増加していた。

老研式活動能力指標

「新聞を読んでいる (できる)」者は、男性では、96.7% (2002年) → 95.0% (2004年) とほとんど変わらなかったが、女性では、91.7% (2002年) → 87.4% (2004年) とやや減少していた。

「本や雑誌を読んでいる (できる)」者は、男性では、89.4% (2002年) → 76.4% (2004年) とかなり減少し、女性でも、87.3% (2002年) → 71.0% (2004年) と大幅に減少していた。

「友人を訪問している (できる)」者は、男性では、76.5% (2002年) → 52.8% (2004年) へ

約 25%減少し、女性でも、84.2% (2002 年) → 66.9% (2004 年) と約 20%に減少していた。

「家族や友人の相談にのる(できる)」者は、男性では、86.3% (2002 年) →72.4% (2004 年) に、女性でも、87.9% (2002 年) →76.0% (2004 年) に、いずれも約 10~15%減少していた。

「若い人に話かける(できる)」者は、男性では、85.6% (2002 年) →72.8% (2004 年) にかなり減少し、女性でも、90.0% (2002 年) →82.5% (2004 年) に減少していた。

この他の 8 項目「電車やバスを使って一人で外出(できる)」、「日用品の買い物(できる)」、「食事の用意(できる)」、「請求書の支払い(できる)」、「預貯金の出し入れ(できる)」、「年金などの書類作成(できる)」、「健康情報への関心(ある)」、「病人の見舞い(できる)」については、男女ともほとんど変わらなかった。

老研式活動能力指標の総得点(13 点満点)では、「12 点以上」の者は、男性では、72.1% (2002 年) →53.3% (2004 年) に、女性でも、80.3% (2002 年) →63.8% (2004 年) に、いずれも約 15~20%減少していた。

また、この指標の下位尺度である「手段的自立(問 1~5)」で、「5 点」の者は、男性では、80.2% (2002 年) →82.3% (2004 年) とほとんど変わらず、女性でも、93.8% (2002 年) →94.2% (2004 年) とほとんど変わらなかった。一方、同じ下位尺度である「知的能動性(問 6~9)」では、「4 点」の者は、男性では、76.7% (2002 年) →66.0% (2004 年) に、女性でも、79.8% (2002 年) →64.0% (2004 年) に、いずれも約 10~15%減少していた。さらに、「社会的役割

(問 10~13)」では、「4 点」の者は、男性では、63.8% (2002 年) →40.3% (2004 年) に、女性でも、71.2% (2002 年) →49.2% (2004 年) に、いずれも約 20~25%減少していた。

趣味

趣味が「よくする」者は、男性では、52.2% (2002 年) →45.7% (2004 年) にやや減少し、女性でも、53.3% (2002 年) →47.6% (2004 年) にやや減少していた。

地域活動への参加

「地域活動への参加(している)」者は、男性では、43.8% (2002 年) →32.6% (2004 年) に、女性でも、46.3% (2002 年) →42.2% (2004 年) に、いずれも約 5~10%減少していた。

飲酒習慣

お酒を「飲む」者は、男性では、64.8% (2002 年) →61.4% (2004 年) とほとんど変わらず、女性でも、28.7% (2002 年) →26.4% (2004 年) とほとんど変わらなかった。

喫煙習慣

たばこを「吸う」者は、男性では、23.5% (2002 年) →21.3% (2004 年) とほとんど変わらず、女性でも、3.8% (2002 年) →3.5% (2004 年) とほとんど変わらなかった。

咀嚼機能

「どんなものでも噛める」者は、男性では、67.5% (2002 年) →69.7% (2004 年) とほとんど変わらず、女性でも、68.3% (2002 年) →66.4% (2004 年) とほとんど変わらなかった。

認知機能

「認知機能低下 (MMSE23 点以下)」の者は、男性では、3.3% (2002 年) →8.4% (2004 年) へ、女性でも、3.8% (2002 年) →7.1% (2004 年) へいずれもかなり増加していた。

年齢階級別にみれば、男性では、75 歳以上 (77 歳以上) で、1.8% (2002 年) →7.2% (2004 年) とかなり増加し、80 歳以上 (82 歳以上) でも、6.3% (2002 年) →16.8% (2004 年) と大幅に増加した。女性においても、75 歳以上 (77 歳以上) で、3.7% (2002 年) →8.6% (2004 年) でかなり増加し、80 歳以上 (82 歳以上) でも、10.3% (2002 年) →16.2% (2004 年) と増加していた。

大うつ病リスク

「大うつ病リスクあり (MINI スケール) あり」の者は、男性では、1.0% (2002 年) →1.3% (2004 年) へ、女性でも、2.1% (2002 年) →2.4% (2004 年) にやや増加していた。

身長

身長 (平均値) は、男性では、161.0cm (2002 年) →161.0cm (2004 年) と変わらず、女性でも、148.1cm (2002 年) →147.9cm (2004 年) とほとんど変わらなかった。

体重

体重 (平均値) は、男性では、60.2kg (2002 年) →59.7kg (2004 年) に、女性では、49.8kg (2002 年) →49.3kg (2004 年) に、いずれも 0.5kg 減少していた。

BMI (体格指数)

BMI (平均値) は、男性では、23.2 (2002 年)

→23.0 (2004 年) に、女性では、22.7 (2002 年) →22.5 (2004 年) に、いずれも 0.2 減少していた。

収縮期血圧

収縮期血圧 (平均値) は、男性では、149.0mmHg (2002 年) →148.1mmHg (2004 年) とほとんど変わらず、女性でも、145.2mmHg (2002 年) →145.8mmHg (2004 年) とほとんど変わらなかった。

拡張期血圧

拡張期血圧 (平均値) は、男性では、84.1mmHg (2002 年) →82.3mmHg (2004 年) とほとんど変わらず、女性でも、80.9mmHg (2002 年) →79.8mmHg (2004 年) とほとんど変わらなかった。

脈拍数

脈拍数 (平均値) は、男性では、78.5 回/分 (2002 年) →77.6 回/分 (2004 年) とほとんど変わらず、女性でも、80.6 回/分 (2002 年) →80.6 回/分 (2004 年) と変わらなかった。

握力

握力 (平均値) は、男性では、30.9kg (2002 年) →28.4kg (2004 年) に 2.5kg 減少し、女性でも、18.5kg (2002 年) →17.4kg (2004 年) に、1.1kg 減少していた。

通常歩行速度

通常歩行速度 (平均値) は、男性では、1.24m/秒 (2002 年) →1.23m/秒 (2004 年) とほとんど変わらず、女性でも、1.18m/秒 (2002 年) →1.17m/秒 (2004 年) とほとんど変わらなかった。

最大歩行速度

最大歩行速度（平均値）は、男性では、1.96m/秒（2002年）→1.95m/秒（2004年）とほとんど変わらず、女性でも、1.72m/秒（2002年）→1.74m/秒（2004年）とほとんど変わらなかった。

膝伸展力

膝伸展力（平均値）は、男性では、78.2Nm（2002年）→79.1Nm（2004年）に0.9Nm増加し、女性でも、48.6Nm（2002年）→52.4Nm（2004年）に3.8Nmとかなり増加した。年齢階級別にみれば、男性では、74歳以下（76歳以下）で、82.9Nm（2002年）→86.6Nm（2004年）に3.7Nm増加し、女性でも、74歳以下（76歳以下）で、52.9Nm（2002年）→58.4Nm（2004年）に5.5Nmとかなり増加した。

フアンクショナルリーチ

フアンクショナルリーチ（平均値）は、男性では、35.6cm（2002年）→35.2cm（2004年）と変わらず、女性でも、33.2cm（2002年）→32.7cm（2004年）とほとんど変わらなかった。

骨密度

骨密度（平均値）は、男性では、0.466g/cm²（2002年）→0.457g/cm²（2004年）と0.009g/cm²の減少で、女性でも、0.301g/cm²（2002年）→0.292g/cm²（2004年）と0.009g/cm²の減少で、2年間の骨密度減少率は、男性が約2%、女性が約3%であった。

アルブミン

アルブミン（平均値）は、男性では、4.2g/dl（2002年）→4.3g/dl（2004年）とほとんど変

わらず、女性でも、4.2g/dl（2002年）→4.3g/dl（2004年）とほとんど変わらなかった。

総コレステロール

総コレステロール（平均値）は、男性では、193.5mg/dl（2002年）→196.9mg/dl（2004年）とほとんど変わらず、女性でも、211.3mg/dl（2002年）→215.3mg/dl（2004年）とほとんど変わらなかった。

HDLコレステロール

HDLコレステロール（平均値）は、男性では、55.9mg/dl（2002年）→59.7mg/dl（2004年）と約4mg/dl増加し、女性でも、64.1mg/dl（2002年）→69.0mg/dl（2004年）と約5mg/dl増加した。

白血球数

白血球数（平均値）は、男性では、6327/ μ l（2002年）→6347/ μ l（2004年）とほとんど変わらず、女性でも、6145/ μ l（2002年）→6343/ μ l（2004年）に増加していた。

赤血球数

赤血球数（平均値）は、男性では、424万/ μ l（2002年）→441万/ μ l（2004年）に増加し、女性でも、398万/ μ l（2002年）→418万/ μ l（2004年）に増加していた。

血色素量

血色素量（平均値）は、男性では、13.8g/dl（2002年）→14.0g/dl（2004年）と0.2g/dl増加し、女性でも、12.7g/dl（2002年）→12.9g/dl（2004年）と0.2g/dl上昇していた。

ヘマトクリット

ヘマトクリット（平均値）は、男性では、40.6%（2002年）→42.9%（2004年）と2.3%増加し、女性でも、37.2%（2002年）→40.0%（2004年）と2.8%増加していた。

HbA1c

HbA1c（平均値）は、男性では、5.5%（2002年）→5.2%（2004年）と0.3%減少し、女性でも、5.4%（2002年）→5.2%（2004年）と0.2%減少していた。

健康度自己評価 BY 年齢階級 (2002年) ^a

		年齢階級(2002年)							
		74歳以下		75-79歳		80歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
健康 度自 己評 価	非常に健康	47	21.6%	44	26.3%	25	26.3%	116	24.2%
	まあ健康な方	139	63.8%	102	61.1%	56	58.9%	297	61.9%
	あまり健康ではない	27	12.4%	19	11.4%	12	12.6%	58	12.1%
	健康でない	5	2.3%	2	1.2%	2	2.1%	9	1.9%
	合計	218	100.0%	167	100.0%	95	100.0%	480	100.0%

a. 性別 = 男性

健康度自己評価 BY 年齢階級 (2002年) ^a

		年齢階級(2002年)							
		74歳以下		75-79歳		80歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
健康 度自 己評 価	非常に健康	56	18.9%	49	19.9%	24	20.5%	129	19.6%
	まあ健康な方	183	61.8%	135	54.9%	66	56.4%	384	58.3%
	あまり健康ではない	43	14.5%	50	20.3%	20	17.1%	113	17.1%
	健康でない	14	4.7%	12	4.9%	7	6.0%	33	5.0%
	合計	296	100.0%	246	100.0%	117	100.0%	659	100.0%

a. 性別 = 女性

健康度自己評価 BY 年齢階級 (2004年) ^a

		年齢階級(2004年)							
		76歳以下		77-81歳		82歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
健康 度自 己評 価	非常に健康	41	18.8%	38	22.9%	19	20.0%	98	20.5%
	まあ健康な方	133	61.0%	100	60.2%	60	63.2%	293	61.2%
	あまり健康ではない	32	14.7%	22	13.3%	12	12.6%	66	13.8%
	健康でない	12	5.5%	6	3.6%	4	4.2%	22	4.6%
	合計	218	100.0%	166	100.0%	95	100.0%	479	100.0%

a. 性別 = 男性

健康度自己評価 BY 年齢階級 (2004年) ^a

		年齢階級(2004年)							
		76歳以下		77-81歳		82歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
健康 度自 己評 価	非常に健康	52	17.6%	33	13.5%	20	17.1%	105	16.0%
	まあ健康な方	188	63.5%	146	59.6%	69	59.0%	403	61.2%
	あまり健康ではない	46	15.5%	42	17.1%	20	17.1%	108	16.4%
	健康でない	10	3.4%	24	9.8%	8	6.8%	42	6.4%
	合計	296	100.0%	245	100.0%	117	100.0%	658	100.0%

a. 性別 = 女性

痛みの有無 BY 年齢階級(2002年) ^a

		年齢階級(2002年)							
		74歳以下		75-79歳		80歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
痛みの有無	ある	99	45.4%	78	46.7%	38	40.0%	215	44.8%
	ない	119	54.6%	89	53.3%	57	60.0%	265	55.2%
	合計	218	100.0%	167	100.0%	95	100.0%	480	100.0%

a. 性別 = 男性

痛みの有無 BY 年齢階級(2002年) ^a

		年齢階級(2002年)							
		74歳以下		75-79歳		80歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
痛みの有無	ある	184	62.2%	154	62.6%	77	65.8%	415	63.0%
	ない	112	37.8%	92	37.4%	40	34.2%	244	37.0%
	合計	296	100.0%	246	100.0%	117	100.0%	659	100.0%

a. 性別 = 女性

痛みの有無 BY 年齢階級(2004年) ^a

		年齢階級(2004年)							
		76歳以下		77-81歳		82歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
痛みの有無	ある	91	41.7%	78	47.0%	37	38.9%	206	43.0%
	ない	127	58.3%	88	53.0%	58	61.1%	273	57.0%
	合計	218	100.0%	166	100.0%	95	100.0%	479	100.0%

a. 性別 = 男性

痛みの有無 BY 年齢階級(2004年) ^a

		年齢階級(2004年)							
		76歳以下		77-81歳		82歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
痛みの有無	ある	165	55.7%	151	61.6%	69	59.0%	385	58.5%
	ない	131	44.3%	94	38.4%	48	41.0%	273	41.5%
	合計	296	100.0%	245	100.0%	117	100.0%	658	100.0%

a. 性別 = 女性

転倒の有無 BY 年齢階級 (2002年) ^a

		年齢階級 (2002年)							
		74歳以下		75-79歳		80歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
転倒の有無	転んだことがある	22	10.1%	29	17.4%	17	17.9%	68	14.2%
	転んだことがない	196	89.9%	138	82.6%	78	82.1%	412	85.8%
	合計	218	100.0%	167	100.0%	95	100.0%	480	100.0%

a. 性別 = 男性

転倒の有無 BY 年齢階級 (2002年) ^a

		年齢階級 (2002年)							
		74歳以下		75-79歳		80歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
転倒の有無	転んだことがある	66	22.3%	51	20.7%	19	16.2%	136	20.6%
	転んだことがない	230	77.7%	195	79.3%	98	83.8%	523	79.4%
	合計	296	100.0%	246	100.0%	117	100.0%	659	100.0%

a. 性別 = 女性

転倒の有無 BY 年齢階級 (2004年) ^a

		年齢階級 (2004年)							
		76歳以下		77-81歳		82歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
転倒の有無	転んだことがある	22	10.1%	22	13.3%	14	14.7%	58	12.1%
	転んだことがない	196	89.9%	144	86.7%	81	85.3%	421	87.9%
	合計	218	100.0%	166	100.0%	95	100.0%	479	100.0%

a. 性別 = 男性

転倒の有無 BY 年齢階級 (2004年) ^a

		年齢階級 (2004年)							
		76歳以下		77-81歳		82歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
転倒の有無	転んだことがある	46	15.5%	51	20.8%	29	24.8%	126	19.1%
	転んだことがない	250	84.5%	194	79.2%	88	75.2%	532	80.9%
	合計	296	100.0%	245	100.0%	117	100.0%	658	100.0%

a. 性別 = 女性

転倒回数 BY 年齢階級 (2002年) ^a

		年齢階級 (2002年)							
		74歳以下		75-79歳		80歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
転倒回数	回数不明・未回答	0	.0%	0	.0%	0	.0%	0	.0%
	1	18	81.8%	20	69.0%	9	52.9%	47	69.1%
	2	1	4.5%	5	17.2%	5	29.4%	11	16.2%
	3	2	9.1%	2	6.9%	2	11.8%	6	8.8%
	10	1	4.5%	0	.0%	0	.0%	1	1.5%
	24	0	.0%	1	3.4%	0	.0%	1	1.5%
	無数・多数	0	.0%	1	3.4%	1	5.9%	2	2.9%
	合計	22	100.0%	29	100.0%	17	100.0%	68	100.0%

a. 性別 = 男性

転倒回数 BY 年齢階級 (2002年) ^a

		年齢階級 (2002年)							
		74歳以下		75-79歳		80歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
転倒回数	回数不明・未回答	0	.0%	0	.0%	0	.0%	0	.0%
	1	52	80.0%	35	68.6%	9	47.4%	96	71.1%
	2	7	10.8%	7	13.7%	2	10.5%	16	11.9%
	3	3	4.6%	2	3.9%	5	26.3%	10	7.4%
	4	0	.0%	2	3.9%	2	10.5%	4	3.0%
	5	2	3.1%	2	3.9%	0	.0%	4	3.0%
	10	1	1.5%	0	.0%	0	.0%	1	.7%
	無数・多数	0	.0%	3	5.9%	1	5.3%	4	3.0%
合計	65	100.0%	51	100.0%	19	100.0%	135	100.0%	

a. 性別 = 女性

転倒回数 BY 年齢階級(2004年) ^a

		年齢階級(2004年)							
		76歳以下		77-81歳		82歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
転倒回数	回数不明・未回答	0	.0%	1	4.5%	1	7.1%	2	3.4%
	1	12	54.5%	10	45.5%	6	42.9%	28	48.3%
	2	5	22.7%	3	13.6%	3	21.4%	11	19.0%
	3	2	9.1%	5	22.7%	1	7.1%	8	13.8%
	4	0	.0%	1	4.5%	1	7.1%	2	3.4%
	5	2	9.1%	1	4.5%	0	.0%	3	5.2%
	6	1	4.5%	0	.0%	0	.0%	1	1.7%
	12	0	.0%	1	4.5%	0	.0%	1	1.7%
	20	0	.0%	0	.0%	1	7.1%	1	1.7%
	無数・多数	0	.0%	0	.0%	1	7.1%	1	1.7%
	合計	22	100.0%	22	100.0%	14	100.0%	58	100.0%

a. 性別 = 男性

転倒回数 BY 年齢階級(2004年) ^a

		年齢階級(2004年)							
		76歳以下		77-81歳		82歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
転倒回数	回数不明・未回答	0	.0%	0	.0%	1	3.4%	1	.8%
	1	29	63.0%	35	68.6%	17	58.6%	81	64.3%
	2	10	21.7%	11	21.6%	6	20.7%	27	21.4%
	3	6	13.0%	3	5.9%	3	10.3%	12	9.5%
	4	1	2.2%	0	.0%	0	.0%	1	.8%
	5	0	.0%	1	2.0%	1	3.4%	2	1.6%
	10	0	.0%	0	.0%	1	3.4%	1	.8%
	無数・多数	0	.0%	1	2.0%	0	.0%	1	.8%
	合計	46	100.0%	51	100.0%	29	100.0%	126	100.0%

a. 性別 = 女性

転倒恐怖感 BY 年齢階級(2002年) ^a

		年齢階級(2002年)							
		74歳以下		75-79歳		80歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
転倒恐怖感	とてもこわい	26	12.0%	19	11.4%	16	16.8%	61	12.7%
	少しこわい	61	28.1%	48	28.7%	25	26.3%	134	28.0%
	こわくない	130	59.9%	100	59.9%	54	56.8%	284	59.3%
	合計	217	100.0%	167	100.0%	95	100.0%	479	100.0%

a. 性別 = 男性

転倒恐怖感 BY 年齢階級(2002年) ^a

		年齢階級(2002年)							
		74歳以下		75-79歳		80歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
転倒恐怖感	とてもこわい	71	24.0%	73	29.7%	35	29.9%	179	27.2%
	少しこわい	114	38.5%	103	41.9%	46	39.3%	263	39.9%
	こわくない	111	37.5%	70	28.5%	36	30.8%	217	32.9%
	合計	296	100.0%	246	100.0%	117	100.0%	659	100.0%

a. 性別 = 女性

転倒恐怖感 BY 年齢階級(2004年) ^a

		年齢階級(2004年)							
		76歳以下		77-81歳		82歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
転倒恐怖感	とてもこわい	17	7.8%	15	9.3%	8	8.4%	40	8.4%
	少しこわい	58	26.6%	51	31.5%	33	34.7%	142	29.9%
	こわくない	143	65.6%	96	59.3%	54	56.8%	293	61.7%
	合計	218	100.0%	162	100.0%	95	100.0%	475	100.0%

a. 性別 = 男性

転倒恐怖感 BY 年齢階級(2004年) ^a

		年齢階級(2004年)							
		76歳以下		77-81歳		82歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
転倒恐怖感	とてもこわい	64	21.8%	74	30.3%	38	32.5%	176	26.9%
	少しこわい	91	31.0%	81	33.2%	40	34.2%	212	32.4%
	こわくない	139	47.3%	89	36.5%	39	33.3%	267	40.8%
	合計	294	100.0%	244	100.0%	117	100.0%	655	100.0%

a. 性別 = 女性

移動能力 BY 年齢階級(2002年) ^a

		年齢階級(2002年)							
		74歳以下		75-79歳		80歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
移動能力	1人で外出できる	214	98.2%	164	98.2%	91	95.8%	469	97.7%
	1人で遠出はできない	4	1.8%	3	1.8%	4	4.2%	11	2.3%
	少しは動ける	0	.0%	0	.0%	0	.0%	0	.0%
	あまり動けない	0	.0%	0	.0%	0	.0%	0	.0%
	寝たり起きたり	0	.0%	0	.0%	0	.0%	0	.0%
	合計	218	100.0%	167	100.0%	95	100.0%	480	100.0%

a. 性別 = 男性

移動能力 BY 年齢階級(2002年) ^a

		年齢階級(2002年)							
		74歳以下		75-79歳		80歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
移動能力	1人で外出できる	293	99.0%	230	93.9%	104	88.9%	627	95.3%
	1人で遠出はできない	3	1.0%	15	6.1%	12	10.3%	30	4.6%
	少しは動ける	0	.0%	0	.0%	1	.9%	1	.2%
	あまり動けない	0	.0%	0	.0%	0	.0%	0	.0%
	寝たり起きたり	0	.0%	0	.0%	0	.0%	0	.0%
	合計	296	100.0%	245	100.0%	117	100.0%	658	100.0%

a. 性別 = 女性

移動能力 BY 年齢階級(2004年) ^a

		年齢階級(2004年)							
		76歳以下		77-81歳		82歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
移動能力	1人で外出できる	213	97.7%	162	97.6%	88	92.6%	463	96.7%
	1人で遠出はできない	5	2.3%	4	2.4%	5	5.3%	14	2.9%
	少しは動ける	0	.0%	0	.0%	2	2.1%	2	.4%
	あまり動けない	0	.0%	0	.0%	0	.0%	0	.0%
	寝たり起きたり	0	.0%	0	.0%	0	.0%	0	.0%
	合計	218	100.0%	166	100.0%	95	100.0%	479	100.0%

a. 性別 = 男性

移動能力 BY 年齢階級(2004年) ^a

		年齢階級(2004年)							
		76歳以下		77-81歳		82歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
移動能力	1人で外出できる	289	97.6%	227	92.7%	105	89.7%	621	94.4%
	1人で遠出はできない	6	2.0%	17	6.9%	11	9.4%	34	5.2%
	少しは動ける	1	.3%	1	.4%	1	.9%	3	.5%
	あまり動けない	0	.0%	0	.0%	0	.0%	0	.0%
	寝たり起きたり	0	.0%	0	.0%	0	.0%	0	.0%
	合計	296	100.0%	245	100.0%	117	100.0%	658	100.0%

a. 性別 = 女性

歩行補助具の使用 BY 年齢階級(2002年) ^a

		年齢階級(2002年)							
		74歳以下		75-79歳		80歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
歩行補助具の使用	使っている	6	2.8%	5	3.0%	5	5.3%	16	3.3%
	使っていない	210	96.3%	161	96.4%	89	93.7%	460	95.8%
	全く歩行できない	2	.9%	1	.6%	1	1.1%	4	.8%
	合計	218	100.0%	167	100.0%	95	100.0%	480	100.0%

a. 性別 = 男性

歩行補助具の使用 BY 年齢階級(2002年) ^a

		年齢階級(2002年)							
		74歳以下		75-79歳		80歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
歩行補助具の使用	使っている	13	4.4%	20	8.1%	24	20.5%	57	8.6%
	使っていない	281	94.9%	225	91.5%	93	79.5%	599	90.9%
	全く歩行できない	2	.7%	1	.4%	0	.0%	3	.5%
	合計	296	100.0%	246	100.0%	117	100.0%	659	100.0%

a. 性別 = 女性

歩行補助具の使用 BY 年齢階級(2004年) ^a

		年齢階級(2004年)							
		76歳以下		77-81歳		82歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
歩行補助具の使用	使っている	6	2.8%	10	6.0%	13	13.7%	29	6.1%
	使っていない	209	95.9%	156	94.0%	81	85.3%	446	93.1%
	全く歩行できない	3	1.4%	0	.0%	1	1.1%	4	.8%
	合計	218	100.0%	166	100.0%	95	100.0%	479	100.0%

a. 性別 = 男性

歩行補助具の使用 BY 年齢階級(2004年) ^a

		年齢階級(2004年)							
		76歳以下		77-81歳		82歳以上		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
歩行補助具の使用	使っている	16	5.4%	37	15.1%	30	25.6%	83	12.6%
	使っていない	280	94.6%	207	84.5%	85	72.6%	572	86.9%
	全く歩行できない	0	.0%	1	.4%	2	1.7%	3	.5%
	合計	296	100.0%	245	100.0%	117	100.0%	658	100.0%

a. 性別 = 女性